

平成26年度に係る
自己点検・自己評価報告書

平成27年5月18日
聖ヶ丘教育福祉専門学校

1 学校の現況

(1) 学校名 聖ヶ丘教育福祉専門学校

(2) 所在地 横浜市保土ヶ谷区常盤台 66 番 18 号

(3) 沿革

昭和 10 年 2 月 真宗大谷派横浜別院 故鹿野久恒により中区長者町に横浜聖徳保母養成所創立

昭和 26 年 4 月 文部大臣の指定する 1 年制の幼稚園教諭養成機関として認可

横浜聖徳保育学校として開校

校舎を磯子区丸山町に移転

昭和 34 年 4 月 学校法人聖ヶ丘学園に組織変更し、2 年制の幼稚園教員養成科を設置

聖ヶ丘女子学院と改称し、校舎を保土ヶ谷区常盤台に新築

昭和 49 年 4 月 厚生大臣の指定を受け保母養成課程を設置

昭和 51 年 6 月 専修学校の認可を受け校名を聖ヶ丘保育専門学校と改称

平成元年 4 月 厚生大臣の指定を受け介護福祉士養成課程を設置

平成 2 年 4 月 聖ヶ丘教育福祉専門学校と改称

平成 5 年 4 月 介護福祉士専攻科を設置

平成 9 年 4 月 介護福祉士専攻科定員を 40 名から 80 名に定員増

保母養成課程を設置

平成 11 年 4 月 保母養成科を保育士養成科と名称変更

平成 15 年 1 月 校舎を取り壊し、校舎を同地に新築

平成 19 年 3 月 旧介護科校舎をグラウンドに変更

平成 20 年 4 月 第二部幼稚園教員・保育士養成科定員を 40 名から 80 名に定員増

平成 21 年 4 月 第二部幼稚園教員養成科を廃止

平成 23 年 4 月 介護福祉士専攻科定員を 80 名から 40 名に定員減

平成 26 年 4 月 第一部介護福祉士養成課科を廃止

平成 26 年 7 月 ひかりの風保育園建設のためグラウンドを取り壊し

(4) 学科の構成

課程名	学科名	昼・ 夜	収容定員		学級数	修業年限	授業開始 ・終了時刻
			入学 定員	総 定員			
教育・ 社会福祉 専門課程	第一部幼稚園教員・ 保育士養成科	昼	80	160	4	2	午前 9 時 00 分～ 午後 4 時 00 分
	第二部幼稚園教員・ 保育士養成科	夜	80	240	6	3	午後 4 時 10 分～ 午後 7 時 20 分
	第一部保育士 養成科	昼	40	80	2	2	午前 9 時 00 分～ 午後 4 時 00 分
	第一部介護福祉士 専攻科	昼	40	40	1	1	午前 9 時 00 分～ 午後 4 時 00 分

(5) 学生数及び教職員数（平成 26 年 5 月 1 日現在）

学生数

学科名	学年	定員	人数	総人数
第一部幼稚園教員・保育士養成科	1年	80名	106名	199名
	2年	80名	93名	
第二部幼稚園教員・保育士養成科	1年	80名	62名	194名
	2年	80名	67名	
	3年	80名	65名	
第一部保育士養成科	1年	40名	33名	60名
	2年	40名	27名	
第一部介護福祉士専攻科	1年	40名	18名	18名
合 計		520名	471名	

教職員数

区分	常勤	非常勤	合計
校 長	1名		1名
教 員	21名	43名	64名
事務職員	17名	0名	17名
そ の 他	0名	1名	1名
合 計	39名	44名	83名

(6) 施設の概要（平成 26 年 5 月 1 日現在）

屋上	
4階 (763.36 m ²)	教室4 研究室3 大ピアノ室1 中ピアノ室2 学友会室 楽器庫
3階 (1,470.83 m ²)	教室4（うち学生サロン1） 階段教室1 ピアノ室16 体育館
2階 (920.97 m ²)	教室3 調理実習室 入浴実習室 介護実習室 和室 研究室4 同窓会室
1階 (990.89 m ²)	理事長室 校長室 職員室 応接室 会議室 保健室 相談室 被服・パソコン室 講師室 図書室等
地下 (999.90 m ²)	駐車場 駐輪場

2 評価の基本方針

(1) 自己評価委員会

聖ヶ丘教育福祉専門学校の教職員が、本校の理念・目標に照らして自らの教育活動その他の学校運営の状況について評価を行う委員会で、学則第10章学校評価第37条学校評価第1項及び業務分掌規程第9条第1項第3号に規定する特設委員会。次の委員及び副委員構成等で平成26年6月1日に設置。

(2) 評価基準項目並びに自己評価委員会の委員及び副委員

【評価基準項目】	【担当委員】	【担当副委員】
基準1 教育理念・目的・人材育成像	井上貴恭 古澤 昇	田島めぐり
基準2 学校運営	遠藤政男	鳥羽信子
基準3 教育活動	今村雅彦 小林 根	宮本安希子 木田茂樹
基準4 学習成果	亀田良克	竹内真悟
基準5 学生支援	渡邊 誠 木田茂樹	竹内真悟
基準6 教育環境	渡邊慶信	井口大介
基準7 学生の受入れ募集	渡辺潤一	勝亦健介
基準8 財務	渡邊慶信	井口大介
基準9 法令等の遵守	遠藤政男	鳥羽信子
基準10 社会貢献・地域貢献	渡辺潤一	勝亦健介

(3) 基本方針

自己評価委員会は、学校の教育目標及び事業計画等に沿った取組の達成状況並びに学校運営等への取組が適切に行われたかについて自己評価を行い、教育活動及び学校運営の課題について継続的に改善を図り、教育の質の向上及び保証を図るとともに、その結果を学生及び保護者をはじめとする学校関係者に対し公表し、説明責任を果たすことを基本方針とする。

(4) 自己評価の方法

- ① 自己評価委員会の各委員及び副委員は、別紙「平成26年度 聖ヶ丘教育福祉専門学校 自己評価表」に設定された教育目標、評価項目の達成及び取り組み状況並びに学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果について、現在の状況、課題及び今後の改善策を記述するとともに「聖ヶ丘教育福祉専門学校自己評価基準」に従って評価する。
- ② 各評価基準項目の委員及び副委員に選任された者は、当該評価基準項目が自己の担当部以外に関係する評価基準項目であっても、それを担当する部長等と連携協力し、調整を図って評価、記述を完成させること。

(5) 自己評価の実施方法

- ① 本校の自己評価基準は、文部科学省が策定・公表した「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠して特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構が策定した「専門学校等評

価基準書 Ver. 4.0」を採用し、当該基準書基準を「聖ヶ丘教育福祉専門学校自己評価基準」とした。

② 評価方法は、校長以下全教員及び事務職員が参加して、基準書の各評価基準項目の点検小項目を使用して次のように自己評価書を作成する。

ア 評価の観点に基づいて該当するチェック項目にチェック【レ】をする。

イ 基準 10 社会貢献・地域貢献 点検中項目【10-36】社会貢献・地域貢献 点検小項目 10-36-2「国際交流に取り組んでいるか」については、非該当とし、チェック項目として数えないこととする。

ウ 評価は、次の方法で判定する。

(ア) 各点検小項目のチェック項目数÷各点検小項目のチェック項目総数×100=〇〇%（小数点以下四捨五入）を算出し、

(イ) 上記数式から算出された割合に当たる評価が、

- ・ 75%以上の場合、評価 4（適切）
- ・ 74%～50%の場合、評価 3（ほぼ適切）
- ・ 49%～25%の場合、評価 2（やや不適切）
- ・ 24%～0%の場合、評価 1（不適切）を基準書の各評価基準項目の点検小項目の評価欄に記載する。

③ 点検小項目の状況・課題・今後の改善策等欄に可能な限り状況、課題及び今後の改善策等を記載する。

(6) 自己評価結果の公表

自己評価委員会は、自己評価結果や今後の改善方策等についてとりまとめ、その結果を自己点検・自己評価報告書として学生及び保護者をはじめとする学校関係者に対し学校ホームページ上で公表し、学校改善に資するものとする。

3 学校の教育理念・教育方針等

(1) 目的

本校は、「学校教育法」及び「児童福祉法」の規定に基づき、幼児教育及び保育に係る専門知識及び技術を習得させ、有為な幼稚園教諭及び保育士を育成することを目的とする。また、「社会福祉士及び介護福祉士法」の規定に基づき、社会福祉業務に係る専門知識及び技術を習得させ、広く社会に貢献できる介護福祉士を育成することを目的とする。（聖ヶ丘教育福祉専門学校学則第1条）

(2) 教育理念

本校の前身は、昭和10年に横浜東本願寺境内に県下唯一の優れた知徳を備えた保母を養成する場として創設された「横浜聖徳保母養成所」である。本校は、創立者である鹿野久恒師が掲げた子どもと保育する者を称え、幼児教育の重要性等を訴えた理念である「国を動かす者は、揺り籠の中に在り」「揺り籠を動かす者は、世界を動かす」を建学の精神として引き継ぎ、女性の幼稚園教諭・保育士・介護福祉士の養成に当たり、校訓に「つよく やさしく 美しく」を掲げて「知・徳・真・善・美」の備わった人間性豊かな社会人の育成を目指している。校訓の「つよく」は、使命感・責任感、「やさしく」は、共感・思いやり、「美しく」は、正しいもの・美しい

ものを愛する感性を表している。

(3) 教育方針及び特色

① 人権尊重の教育の推進

学校教育活動全体を通して、教職員と学生、学生相互の信頼関係を築き、互いの人格を尊重し、使命感・責任感、共感・思いやり、正しいもの・美しいものを愛する感性を育む教育を推進する。

② 質の高い教育の推進

ア 教員が持つ多様な専門性・特性を活かし、また外部講師を積極的に活用して質の高い教育の推進を図るとともに、教員の研修・研究を実施して教員の資質と指導力の向上を図り、学生一人ひとりの能力、特性、個性の伸長を目指す。

イ 質の高い教育を推進するために施設及び設備の整備を推進しており、最新のAV機器による視聴覚機器、200名収容可能な階段教室、19室の個人ピアノレッスン室の整備等学校内の施設及び設備を充実させ、良好な教育環境の確保を進める。

③ 開かれた学校の創造

学校についての様々な情報については、関係業界、地域住民、保護者等に対してホームページ、学校案内及び行事案内等の刊行物の掲載、配布、説明並びに学校の施設開放等を通じて積極的に最新の情報を発信して理解を深めるとともに、連携及び協力して開かれた学校とする。

④ 安全・安心な学校作り

校内組織の安全管理委員会や保健管理委員会を定例的に開催して、学生の通学途上や学校生活等における危機・安全管理体制や防災防火体制について対策を立て、安全・安心な学校作りに努める。

⑤ 実習と教科指導を重視したカリキュラムの編成及び実施

ア 各養成科では、現場の即戦力となる有能な幼稚園教諭及び保育士を養成するため、音楽、図工及び体育等の教科目を重視し、技能、表現、コミュニケーション能力の向上を目指す。特にピアノは、多数の優秀な講師陣を配して、学生の能力差に応じた個別指導による丁寧な指導を行い、高いレベルのピアノの習得を目指す。

イ 各年次生への通常教育実習、保育実習、施設実習の他に、第一部1年次生には、事前に保育の楽しさを実体験させる通年実習を附属の幼稚園・保育所で計画実施し、「ふれ合いながら学び、学びながらふれ合う」ことを実践しつつ、現場での学びを通して理論と実践の一体化を図る。

ウ 第二部（夜間部）の学生には、昼間、県下の幼稚園・保育園・児童福祉施設等において助手として現場体験を積むことを通し、即戦力としての力量を高める助手勤務制度を実施する。

エ 専攻科の介護実習では、県内福祉施設での実習の他、事前に連携協力施設で基礎的な介護実習体験を積む通年実習を計画実施する。

⑥ 学生の個々の課題に応じたきめ細かな指導・助言・援助

ア 学生の質の多様化に対応するためクラス担任制を採用し、クラスの担任及び副担任が、学生の個々の課題に応じたきめ細かな指導・助言・援助等を行う。

イ 本校においては幼稚園教諭、保育士及び介護福祉士の3つの資格の取得が可能であり、こうした資格取得者の卒業年次生を対象とした就職指導では、就職指導の時間を授業内に配し、きめ細やかな指導を実施する。

4 平成 26 年度学校運営方針と各部・委員会事業計画

【学校運営方針】

- (1) 「聖ヶ丘」のブランド力向上のためのコンプライアンスの積極的な取り組みを図る。
- (2) 平成 27 年度の職業実践専門課程の認定に向け文部科学大臣の規定する各要件の充足を図る。
- (3) 各部が連携して退学者及び除籍者減少のための各施策の徹底を図る。

【入試・広報部】

- (1) オープンキャンパス等の学生募集活動を 14 回実施し、本校の教育内容を入学希望者に正確に伝える。
- (2) 高校教員を対象とした進学指導説明会を 1 回開催し、平成 27 年度入学生の受入れ体制を整備する。
- (3) 高校との連携によりキャリア教育（職業教育）の支援・受入を推進する。
- (4) 入学者の選考基準については、より適正かつ公平な基準となるよう見直しする。

【教務部】

- (1) 第一部保育科は 2 年間、第二部保育科は 3 年間、介護福祉士専攻科は 1 年間を修業年限とし、保育者及び介護者として必要な知識・技能を養うため各学年における到達目標を明確に設定する。
- (2) 各学科に付随する免許及び資格を取得するため、関係法令を遵守し、卒業に必要な単位数を取得させる為のカリキュラムの配置に努める。
- (3) 半期 15 回の授業回数を確保し、授業日数が不足した場合は、学期末の補講及び土曜日補講を実施する。
- (4) 規定の単位の取得に加え、本校独自となる学校内外で実施する附属園での事前に保育の楽しさを実体験させる通年実習及び県内の各園等での現場で即戦力として通用する実践的な力量を高めるための助手勤務を通して体系的かつ総合的なカリキュラムを組む。
- (5) 常に学生の出席状況を把握するため、平成 26 年度より新入生オリエンテーションにて、予め学生に対し出席の重要性を伝達するとともに、担任・副担任と連携を図って非常勤講師も含めた出席調査を行う。
- (6) 学生の免許及び資格取得に向けて常に学生の動向について迅速な把握に努め、財務部と連携して退学者及び除籍者の減少につながるよう保護者への対応の強化を図る。
- (7) 卒業年次生を対象に卒業判定会議を設け、全教員と連携し学生の指導を行う。

【学生指導部】

- (1) 部活動の促進を図り、神奈川県専門学校体育大会に積極的に参加する。
- (2) 新入生学外オリエンテーションのプログラムに「遊びを考える」をテーマにした保育実践演習を取り入れ、保育者を志す学生の自覚を促す。
- (3) 全学生参加のスポーツ大会（運動会）を開催し、学生全体の親睦を図る。
- (4) 文化祭のステージ発表や出店では、保育及び介護を志す学生に相応しいテーマを選択させる。また、各部門の優秀作品等に校長賞を授与することとし、学生の参加意識の向上を醸成するとともに努力を讃える。
- (5) 平成 27 年度 12 月に開催される 2 年に 1 度の音楽祭（聖ヶ丘ミュージックフェスティバル／HIJIRIGAOKA BIENNIAL 2015）の企画を行う。
- (6) 学生相談の体制について検討を行う。

【実習指導部】

- (1) 平成 25 年度の実習指導部の反省を基に年間指導計画を改善し、より学生の実態に合った計画

とする。

- (2) 実習園並びに実習施設との連携をより密にして学生の指導を強化する。
- (3) 教育実習、保育実習及び施設実習並びに期間外実習の期間及び実習先園等を確保する。
- (4) 実習に係る諸事務が円滑に行われるよう年間活動計画表を作成する。
- (5) 各実習の学生評価を行う。
- (6) 情報の共有及び問題解決のため毎週1回部会を開催する。

【就職指導部】

- (1) 卒業年次の学生を対象に「就職指導」の時間を授業として位置づけ、「就職指導ガイドブック」をテキストとして学生に配布して、学生が安全かつ円滑な就職活動を行えるよう支援していく。
- (2) 就職採用試験において面接試験がかなりの頻度で課されている現状を考慮し、面接試験対策用視聴覚教材（ユーシーカード株式会社人事部監修「面接試験～合格ガイド～」（一橋出版））を視聴する。その後、授業時間を活用し、卒業年次の全学生に模擬面接を実施する。
- (3) 平成25年度は、幼児教育、保育及び介護方面への就職希望者の就職内定率は、年末で66.29%（平成25年12月16日現在。但し、進学者を除く）、年度末100%（平成26年3月20日現在。但し、進学者を除く）であった。平成26年度も高い就職率（年末までの達成目標66%、年度末98%以上）に向けて、早期からの学生への働きかけを適宜行っていく。
- (4) 平成26年4月1日現在の助手勤務希望者への斡旋率は、93.16%であった。今年度においても、平成27年4月時点での斡旋率が、95%を達成できるよう努めていく。

【奨学金指導部】

- (1) 教務部、財務部等関係各部との連携を強化し、面接等の個別指導を随時実施することで、各種奨学金制度の適切な利用を促すとともに、将来的な休・退学者、授業料等の納付金滞納者及び奨学金未返還者の減少を目指す。
- (2) 聖ヶ丘教育福祉専門学校特別奨学金制度のより公正な運用のために、奨学生選考時期の変更を含めた制度改定を進める。

【総務部】

- (1) 学園本部及び各部との連絡を綿密に行うとともに、各部・委員会を支援して校務の円滑な事務処理に努める。
- (2) 所属長が提出する「特別昇給申請書」の勤務成績優良者の中から平成26年度特別昇給者を審査し決定する。
- (3) 学園の職員に係る事務分担表の作成を企画する。
- (4) 学園の職員に係る人材育成・確保計画、人事考課制度及び昇進・昇格制度について検討する。

【財務部】

- (1) 毎年度納付金に関する徴収不能額又は徴収不能引当金は、入学金を除いた学生生徒納付金収入の2%以内とする。
- (2) 授業料等納付金未納者の取扱に関する規程及び授業料等納付金未納者に対する督促事務取扱要領に基づき、教務部及び奨学金指導部と連携して未納者に対し早期に働きかけて徴収不能額を抑制する。
- (3) 設備関係は、耐用年数経過後速やかに更新できるよう計画するとともに予算計上する。

【生活指導委員会】

- (1) 各部との連携を図り、学生の生活指導をきめ細かく行う。
- (2) 学生の生活指導上の課題への対応方法を研究し、学生に対して適切な指導・助言を行う。

【保健管理委員会】

- (1) 学生の健康の保持及び増進を図るため、年度初めの4月に全学生を対象とした健康診断を実施する。
- (2) 緊急時の学生への対応能力を高めるため、全教職員を対象とした校医による救急処置法の講演会を開催する。
- (3) 学生及び教職員が学内で快適に過ごせるよう学内環境整備を行う。
- (4) 保健室が円滑に使用できるよう保健室の環境整備並びに薬品及び物品の管理・補充を行う。
- (5) 学生及び教職員が学校内外で活動する際の保健・衛生・救護活動を行う。
- (6) 全学生を対象に、校医による性感染症講演会を実施する。
- (7) 社会の中での感染症の流行を敏感に察知し、校内で蔓延しないための体制を常に整えるよう教職員の意識を高める啓蒙活動を行う。

【安全管理委員会】

- (1) 4月に地震を想定した避難訓練を実施する。
- (2) 8月に卒年次生を対象に不審者対応講習会を実施する。
- (3) 10月に火災を想定した避難訓練を実施する。
- (4) 防災備品を補充する。

【美化委員会】

- (1) 学びの場である校内を環境整備していくことへの意識の醸成を図る。
- (2) 学生を積極的に参加させて校内の一斉清掃を実施する。

【図書委員会】

- (1) 図書館の管理並びに資料の購入及び整備を行う。
- (2) 貸出用ノートパソコンを管理する。
- (3) 図書管理システムを運営する。
- (4) 「聖ヶ丘教育福祉専門学校年報」「聖ヶ丘教育福祉専門学校紀要」「学校便り」及び「図書館だより」の編集及び発行を行う。
- (5) 研究用図書購入に係る手続きを行う。

5 評価項目の達成及び取り組み状況（状況・課題・今後の改善策等）

評価は、適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

基準1 教育理念・目的・育成人材像

点検中項目【1-1】理念・目的・育成人材像

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	理念・目的・育成人材像は定められているか	4	保育者及び介護者養成校としての役割を認識し、本校の理念・目的・育成人材像等に基づき各学科の目標や育成人材像を定め、現場で即戦力として通用する実践的な力量を身につける指導を実施している。 理念等については、様々な機会を捉えて、教職員、学生、保護者及び関係業界等に公表して

			いる。 社会の要請による今後の職業教育の充実・強化に対応するため、育成人材像の見直しを適宜行っている。
2	育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4	本校が主催する各種会議や業界団体が主催する会議等において継続した連携体制を構築しており、関連業界等から協力を得ている。
3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4	本校の教育方針及び特色に基づき、特色ある教育活動及び職業実践教育に取り組んでいる。
4	社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4	本校の中・長期計画並びに各部中・長期事業計画を平成26年10月1日に策定しており、様々な機会を捉えて教職員等に周知している。

基準2 学校運営

点検中項目【2-2】運営方針

	項目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	理念等に沿った運営方針を定めているか	4	校長が年度当初、本校の理念等を基に運営方針を定め、教育目標及び運営目標を具体化して「校務分掌・組織」を明示し、職員会議等で更なる調整を図り、全教職員へ周知している。

点検中項目【2-3】事業計画

	項目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	理念等を達成するための事業計画を定めているか	4	平成26年度事業計画については、3つの学校運営方針を基に、各部・委員会が立案及び実施している。目標達成のために、各種会議・委員会で計画遂行の点検及び確認を行っており、年度中に進捗状況について点検し、年度末に総括・反省し、次年度の事業計画を策定している。 平成26年10月に策定した学校の中・長期計画及び各部の中・長期事業計画に沿って進捗状況を把握しつつ、学校運営を適切に推進している。 予算の執行状況については、年度途中に見直し、補正予算を検討している。

点検中項目【2-4】運営組織

	項目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	設置法人の組織運営を適切に行っているか	4	学校運営における重要事項等の最終的な意思決定は、理事会・評議員会で行っており、寄附行為に基づき、議案について学園全職員の意思を正確に捉え、その上で問題を提起し、議論し、承認している。決議した内容は、職員会議

			<p>等で全職員に伝え、全職員はこれを把握し、実行している。</p> <p>寄附行為は、適正手続きにより改正している。</p>
2	学校運営のための組織を整備しているか	4	<p>学校運営の組織に係る規定は「業務分掌規程」として整備されており、各部署の役割分担、意思決定の権限等が明確にされている。また、必要に応じて見直ししており、適正手続きにより改正している。</p> <p>学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質向上への研修等の取組は、今後順次実施していく。</p>

点検中項目【2-5】人事・給与制度

	項目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	人事・給与に関する制度を整備しているか	2	<p>賃金支払基準、雇用・解雇及び採用・不採用の基準並びに特別昇給制度は整備されているが、中・短期事業計画の目標に基づく学校運営に必要な人材の確保と育成等に係る計画並びに人事考課制度及び昇進・昇格制度は、整備されていない。人材育成・確保計画、人事考課制度及び昇進・昇格制度については、今年度中に検討を始める予定である。</p>

点検中項目【2-6】意思決定システム

	項目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	意思決定システムを整備しているか	4	<p>本校の意思決定のためのシステムは、「業務分掌規程」に基づき制度化されており、意思決定の権限や役割分担等も明確化されている。</p>

点検中項目【2-7】情報システム

	項目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	2	<p>情報システム化により業務の効率化は図られてはいるが、学籍管理ソフトの推進については、今後も各部がそれぞれ取組み、伝達、更新、チェック及び共有等より一層の効率化を図る予定である。</p>

基準3 教育活動

点検中項目【3-8】目標の設定

	項目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	<p>本校の育成人材像を基に、保育者として必要な知識・技能を養うため各学年の到達目標を明確に設定している。</p>

2	学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4	職業教育に関する方針を基に、学科毎に教職員全員が保育者及び介護者養成校としての役割を認識し、学生が即戦力として通用する実践的な力量を身につけられるよう各部署との連携を図り指導・支援を行っている。
---	------------------------------	---	---

点検中項目【3-9】教育方法・評価等

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	各学科に付随する免許及び資格取得のための法令を遵守し、各学科及び学年ともに科目の配分の意図を把握し、本校独自のカリキュラムを組み込み体系的なカリキュラムを編成している。
2	教育課程について、外部の意見を反映しているか	4	平成 26 年度より教育課程編成委員会の中で業界関係者等から必要に応じた具体的な改善に向けての提言を受け、その方策を打ち出し実施中である。
3	キャリア教育を実施しているか	4	卒業年次生を対象に「就職指導」を授業として取り入れ、必要書類の記入方法から面接練習、採用後の心構えに至るまでの指導を展開している。
4	授業評価を実施しているか	4	各授業担当者が、授業改善につなげるための学生による授業評価アンケートを平成 26 年度から試行的に実施し、事前に打ち出した授業計画を改めて見直す機会となった。平成 27 年度は本格実施となるため、アンケート項目等の改善については、今後の課題である。

点検中項目【3-10】成績評価・単位認定等

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	入学前の履修、他の教育機関の履修認定等はない。ただし、入学後は毎年作成する授業概要において、各授業担当者より成績評価・単位認定の基準を明確に提示し、入学後最初のオリエンテーションで周知する体制を取っている。
2	作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4	学園祭では、保育実践演習（ゼミ）で掲げた研究テーマをもとに各団体が発表を行う場を設け、秀逸な発表をした団体を表彰し、校訓（つよく、やさしく、美しく）に基づく3つの校長賞を授与している。その他、保育実践演習で保育の研究会に参加している団体もある。

点検中項目【3-11】資格・免許の取得の指導体制

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	4	本校の理念をもとに、各部署間で連携を図り、学生の資格・免許の取得に向け指導体制を取って

			いる。本校は、幼稚園教諭二種免許、保育士資格、介護福祉士の資格が卒業単位数を満たすと同時に取得できる。卒業に必要な授業以外に、他業界で活躍される講師を招き保育の質を高める授業を行っている。
2	資格・免許取得の指導体制はあるか	4	各学年には、担任・副担任制を敷き個別に対応できる体制を整えている。卒業年次生には、所属の保育実践演習（ゼミ）の担当者からきめ細かい個別指導を行っている。

点検中項目【3-12】教員・教員組織

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	教員の採用に関しては、関連業界等と連携し、それぞれの授業科目を担当するための資格・要件に適合した教員の確保に努めている。 教員採用・配置計画等の規程については、まだ策定していない。
2	教員の資質向上への取組を行っているか	4	教員研修規程・要綱・実施要領を策定し、教員研修実施計画を担当する教員研修委員会を設けて、年間2回の全体教員研修会及び各教員への職場外研修会への参加を義務付け、また、自己啓発の支援を行い、教員の資質・能力の向上を図っている。
3	教員の組織体制を整備しているか	4	分野毎の教員組織体制に関しては、法令を遵守し適正に配置されている。また、学科毎に非常勤講師を含めた同一科目担当教員間での協業（連携・協力）体制を図るための打合せ会を設定し、授業内容及び教育方法の改善に努めている。

基準4 学修成果

点検中項目【4-13】就職率

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	就職率の向上が図られているか	4	幼稚園及び保育所に関しては、求人票を神奈川県全域に送付し、その他社会福祉施設等は、過去の実績等を鑑み送付して学生個々の希望に添える求人数を確保することができている。 学生の就職に関するデータは、「就職・進学資料」として、例年、過去5年間分を冊子としてまとめている。近年、高い就職率を維持することが出来ている。

点検中項目【4-14】資格・免許の取得率

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
--	-----	----	---------------

1	資格・免許取得率の向上が図られているか	4	課程修了者は、その所属する科により、幼稚園教諭二種免許状、保育士証、介護福祉士登録証を卒業と同時に取得する。
---	---------------------	---	--

点検中項目【4-15】卒業生の社会的評価

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	卒業生の社会的評価を把握しているか	3	<p>毎年度発行される「学校便り・同窓会だより」に活躍等を掲載して卒業生へ郵送し、紹介している。</p> <p>実習訪問、同窓会等を通して、卒業生の活躍等に関する情報を聴取することに努めている。</p> <p>より多くの卒業生の活躍を把握していくためのシステム作りが今後の課題である。</p>

基準5 学生支援

点検中項目【5-16】就職等進路

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	<p>学生の就職に関するデータは「就職・進学資料」として、例年、過去5年間分を冊子としてまとめている。</p> <p>求人票は、神奈川県全域の幼稚園及び保育所・施設に送付し、二部生には助手勤務の斡旋を行うなど、学生個々の希望に添える求人数を確保することが出来ている。</p>

点検中項目【5-17】中途退学への対応

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	退学率の低減が図られているか	4	<p>異動を検討している学生には、担任が必ず面談を行い、他教員との連携を図っている。また、年度初めに昨年度の学生異動があった学生の割合、要因、傾向について分析を行い次年度に活かすことにしている。</p>

点検中項目【5-18】学生相談

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	学生相談に関する体制を整備しているか	3	<p>平成27年度に学生相談室及び学生相談箱の設置等学生相談体制を整備する予定である。また、引き続きクラス担任制を採って個人面談を随時実施している。</p> <p>個別の事案には、各部と連帯を取りつつ相談等対応を進めている。</p> <p>今後相談記録を適切に保存して行く事が課題である。</p>
2	留学生に対する相談体制を整備して	1	<p>本校では、留学生の受け入れは行っていない</p>

いるか	が、外国籍の学生への支援体制は、日本国籍の学生と同様である。
-----	--------------------------------

点検中項目【5-19】学生生活

	項目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	奨学金指導部という本校独自の分掌を運用し、教員と事務職員が協働して細やかな学生支援活動を実施している。 大規模災害発生時及び家計急変時等へは、日本学生支援機構等の制度を紹介することで対応しているが、本校独自の制度はないため、今後の課題である。
2	学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4	定期的に健康診断を行い、また、校医による特別授業を設ける等学生の健康面への支援体制は整っている。
3	学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	4	本校の県外からの入学者は、毎年2～3名であり、外部業者の指定寮を設けることによって、学生への生活環境支援を行っている。
4	課外活動に対する支援体制を整備しているか	4	「部活動規程」を見直し、クラブ活動や課外活動を再整備している。 体育館、教室等の貸出及び活動費補助等を実施し、部活動・同好会に係る「部活動に関する細則」を基に、毎年度「部活動指導方針等」を策定し、課外活動を支援している。

点検中項目【5-20】保護者との連携

	項目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	保護者との連携体制を構築しているか	4	入学式において保護者に向けて学校の教育活動についての説明を行うとともに、毎年オリエンテーションの際に学生に緊急連絡先を記入させ、緊急時の体制を確保している。また、学業において欠席不良の学生、留年決定の学生にあつては、保護者に伝達し、連携を図っている。

点検中項目【5-21】卒業生・社会人

	項目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	卒業生への支援体制を整備しているか	3	同窓会が組織化され、活発な活動を行っている。また、卒業生対象の再就職斡旋のフォローを随時実施している。
2	産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	1	現在卒業後のキャリア形成支援等については行っていないが、今後関連業界等と連携して社会人の再教育プログラムを開発・実施することは、課題の一つとして捉えている。

3	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	既卒学生に対して、就職等進路相談など個別に対応している。 本校では、入学前の他校での履修(単位)に関する取り扱いを認めていない。
---	--------------------------	---	---

基準6 教育環境

点検中項目【6-22】施設・設備等

	項目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4	施設・設備・教育用具等は設置基準、関係法令に適合し、充実している。また、改修及び更新を適切に実施している。

点検中項目【6-23】学外実習・インターンシップ等

	項目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	教育実習、保育実習、施設実習の他に、第一部1年次生に附属幼稚園・保育所での通年実習を計画実施。実習施設との意見交換会を適宜行い、実習体制の整備を行っている。

点検中項目【6-24】防災・安全管理

	項目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4	危機・安全管理体制や防災防火体制については、安全管理委員会や保健管理委員会等を定期的に行開催し、毎年度「安全管理マニュアル」を作成し危機管理対策を行っている。全学生及び教職員が参加する年2回の地震・火災避難訓練を実施している。
2	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	2	学校安全計画及び授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルについては、平成27年度に策定予定である。

基準7 学生の募集と受入れ

点検中項目【7-25】学生募集活動

	項目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	4	平成26年度は、高等学校等における進学説明会に300回程度参加し、本校の教育内容・方法等、教育活動に関する情報提供を行った。また、オープンキャンパスや高校教員を対象とした進学指導説明会を開催し教育成果を伝えた。 今後も高等学校等への情報提供を積極的に行っていく。
2	学生募集活動を適切かつ効果的に行	4	神奈川県専修学校各種学校協会のガイドライ

っているか	<p>ンを遵守し、定められた入学願書受付日を正確に守っている。</p> <p>学校案内書やHP等は、志願者、保護者の立場を尊重したものになっている。</p> <p>オープンキャンパスでは、卒業生を講師として招いたり、教員による模擬授業を実施する等内容の工夫に努めている。</p> <p>今後も適切かつ効果的な学生募集活動を進めていく。</p>
-------	---

点検中項目【7-26】入学選考

項目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4	<p>本校独自の面接試験マニュアル等を作成し、それに基づき入学選考は、適正かつ公平な基準のもとで実施している。</p> <p>今後は、より適切な運用に向けて、教員に対して研修の機会を設けていく。</p>
2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	<p>学科毎に合否者の現況を示すデータを蓄積し適切に管理及び保存をしている。</p> <p>財務部と連携し財務等の計画数値と入学者数の予測値との整合性を図っている。</p> <p>今後は、入学選考に関する実績を把握し授業改善に活用していきたい。</p>

点検中項目【7-27】学納金

項目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4	<p>学費等に関する規定に基づき学納金を算定している。また学費納入者の経済的負担も十分に考慮し妥当な水準となっている。</p> <p>入学の前後に徴収する金額の全てを募集要項等で明示している。</p>
2 入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	4	<p>文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の取扱いについては、募集要項等に明示し、適切に処理している。</p>

基準8 財務

点検中項目【8-28】財務基盤

項目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	<p>収支バランスのとれた財務運営を行っており、負債は返済可能な範囲となっている。</p>
2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4	<p>最近5年間の主要な財務数値を把握し、毎年度財務分析を行っている。教育研究費比率、人件費比率及び負債比率は適切な数値となっている。</p>

点検中項目【8-29】 予算・収支計画

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	毎年度事業計画を策定し、予算編成を行っており、理事会の承認を得ている。
2	予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4	予算管理責任者が適正に執行管理を行っている。

点検中項目【8-30】 監査

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4	監事監査及び公認会計士監査は、毎年度計画的に実施している。

点検中項目【8-31】 財務情報の公開

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	情報公開規程を整備し、適切に運用している。また、ホームページにも一部情報を公開している。

基準9 法令等の遵守

点検中項目【9-32】 関係法令、設置基準等の遵守

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	法令等の遵守については、運営方針にも示し、教職員全員で遂行している。また、全ての法令を遵守するとともに、様々な法令に準拠して運営を行っている。法令等に変更事項が生じた場合には、迅速な対応を行って規則等を変更するとともに、教職員等にも報告し、周知徹底を図っている。法令遵守の意義と必要性については、教職員はもちろん、学生に対してもより一層の周知を図っていく。

点検中項目【9-33】 個人情報保護

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	学園全体で個人情報保護方針及び個人情報保護規程を制定して個人情報保護に努めている。また、個人情報を適正に取得、管理又は利用するために、「個人情報保護委員会」を設置しており、学園が保有する、又は保有しようとする個人情報の適正な管理、確保及び運用等に関して審議を行っており、個人情報管理責任者及び個人情報取扱責任者の任命による管理組織体制も明確になっている。 しかしながら、学校の大量の個人データを蓄

			積する電磁的記録については、その取扱についての十分なセキュリティー対策が明文化されていないため、健全な学校運営が出来るよう、早急に取り組む必要がある。また、個人情報管理に関する教育等については、教職員はもちろん、学生に対しても教育等を実施していく。
--	--	--	--

点検中項目【9-34】学校評価

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4	平成26年6月に学校自己評価委員会が設置され、「自己評価委員会規程」を基に、本校における現状を点検・評価し、改善すべき点を明確にするために、「専門学校等評価基準」にしたがって、現状を当該委員会で点検・評価し、自己点検・自己評価報告書を作成している。
2	自己評価結果を公表しているか	4	平成25年度の自己点検・自己評価結果は、法人の公式ホームページで公表している。平成26年度と同報告書もホームページに公表する予定である。
3	学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4	平成26年6月に学校関係者評価委員会が設置され、「学校関係者評価委員会規程」を基に、当該委員会が自己点検・自己評価報告書の結果を評価している。
4	学校関係者評価結果を公表しているか	4	平成25年度の学校関係者評価結果は、法人の公式ホームページで公表している。平成26年度と同報告書も同ホームページに公表する予定である。

基準10 社会貢献・地域貢献

点検中項目【10-36】社会貢献・地域貢献

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	教育・福祉関係団体及び地域と様々な連携・交流を図っており、また、学校の教室や体育館、調理実習室等を開放するなど地域社会との連携を深めている。 様々な社会問題について学校として啓蒙活動を行うとともに、学生や教職員は、節電や省エネルギー、社会活動への寄付等の行動を組織的に行っている。

点検中項目【10-37】ボランティア活動

	項 目	評価	状況・課題・今後の改善策等
1	学生のボランティア活動を奨励し、	4	学生には、授業等でボランティア活動の意義

具体的な活動支援を行っているか	を伝えるなどして奨励している。また、社会福祉施設で行われる保育実習 I の授業の一環としてボランティア活動の体験と報告書の提出を課している。
-----------------	--